

## 野球とぼくとおにぎり

日向市立大王谷学園初等部 5年 園田 恵介

ぼくは、去年の十二月から野球を始めた。土、日は、試合や練習試合が入っていることが多い。試合になると、一日で二、三試合する。試合の合間に、エネルギーのゼリーを食べることが多いが、ぼくは、おにぎりを食べることが多い。おにぎりの方がパワーが出るからだ。

ぼくの食べるおにぎりは、おじいちゃんが作ったお米で、お母さんがにぎってくれる。おじいちゃんとお母さんのパワーが入っているからがんばれるのだ。

毎年、おじいちゃんの家に行くと田植えや稲かりの手伝いに行くが、今年の田植えは、野球の新人戦のため手伝いに行くことができなかった。だから、稲かりは家族とたくさん手伝うことにした。今年は、台風が近づいていて、雨がふったりやんだりしていた。お母さんとおばあちゃんは、近くの水の神様に、

「稲かりが終わるまでは、雨がはげしくなりませんように。」

とお参りに行った。そのおかげか、朝は大雨がふつたが、お昼前には、太陽が出るくらいいい天気になった。それでも、雨のせいでコンバインが動かなくなったり、稲が機械の中につまったりしていつもより時間がかかった。いつもなら、一日で終わる稲かりが二日かかった。

ぼくとお父さんは、つゆはらいをした。つゆはらいとは、竹のぼうで稲をゆすって雨水を落とす作業だ。つゆはらいは、はげしくしてしまうと米が稲から外れてしまうから、力加げんが難しかった。お父さんから教えてもらったならうまくできるようになった。時々、力を入れすぎてしまうこともあったが、最後までがんばった。

もう一つの作業は、米をかんそう機に入れることだ。お父さんとお母

さんがトラックで、田んぼからおじいちゃんの家のかんそう機まで運んで、千三百リットルのコメを三人でチェーンでつるしてかんそう機に入れる。とても重たいのに入れるあなが小さいので、おすのが大変だった。しかも、雨で米がぬれていたの、いつもよりさらに重かった。それでも、三人で十回以上入れることができた。と中からは、おじいちゃんの家のかんそう機に入らなくなったので、精米所に持っていった。いつもより、大変だったが、野球で力をつけてきたので、最後までがんばることができた。おじいちゃんもおばあちゃんも、

「恵介やみんなががんばってくれたから、おいしいお米ができあがったんだよ。」

と喜んでくれた。

新米で作ったおにぎりをもって、野球の試合に行った。いつもよりあまくておいしいおにぎり、いつもよりパワーが出た。

これからも、おじいちゃんのお米で作ったおにぎりを食べて、ホームランをねらえる選手になりたい。